



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



中野司教「レオの生き方は信者の手本」

今年の福者レオ七右衛門殉教祭で

薩摩の殉教者・福者レオ七右衛門の殉教を記念し、その列聖を祈願する恒例の「福者レオ七右衛門殉教祭」が11月17日(日)午後川内教会(メニッヒ神父主任司祭)であった。今年の殉教祭は教会庭に



レオの生き方に学ぼうと訴える中野司教

建てられている殉教記念碑前のセレモニーで始まった。セレモニーでは「列聖を求め祈り」が唱えられた後、レオを称える歌でその功績を賛美し中野司教が記念碑に献花を行った。

その後は、聖堂に場所を移して紙芝居が披露された。この紙芝居は純心聖母会のシスター山頭信子がザビエル教会学校の子供たちとのレオ七右衛門についての学習を題材にした「もうでござるか」(2005年11月作)で、2007年の同殉教祭でも一度発表されていたもの。臨場感たっぷりのシスター山頭の朗読で、洗礼、殉教に臨むレオ七右衛門の

心境とその素材でまっすぐな信仰を学んだ。

セレモニー後のミサは、中野司教と11人の司祭、3人の助祭でささげられ、約130人が参列した。参列者の中にはレオが受洗した京泊教会の跡地から川内教会まで徒歩巡礼した後、式典に加わった人たちもいた。

ミサ中説教した中野司教は、この日の福音から「死んで多くの実を結んだ一粒の

麦(イエス)のように、レオも死んで多くのものを残してくれた」と解説。その後、ドミニコ会と薩摩、レオのかかわり、レオの殉教記念碑建立にまつわるエピソードなど紹介し「世の中から見ると馬鹿なことに見えたレオの殉教だが、彼にとつては神との一致という最高の幸せだった。このレオの生き方を私たち信者の模範としよう」と結んだ。

その後の共同祈願では、レオ七右衛門をはじめとする殉教者たちの執り成して今の世が神の国の完成に邁進するように、また来日を控えた教皇のために祈りがささげられた。

12月1日は 宣教地召命促進の日

キリストを知らない人に救いの福音を伝えることは、キリスト者一人ひとりに課せられた使命であり、神からの呼びかけにこたえること(召命)です。それゆえ、宣教地である日本において、すべての信徒がその使命を果たせるよう、また宣教に従事する司祭・修道者がよりいっそう増えるよう祈ることは、とても大切なことです。

11月のコンベンツ

11月19日(火)、教区本部で開かれた全司祭集会(コンベンツ)には31人が出席、教区シノドスから提言を受けた司教の今後の取り組み方が報告されたほか、司祭大会や殉教祭など来年度の教区行事に関する確認が行われた。またディノ神父、アン神父が担当する難民移動移住者委員会

からも教区で増え続ける外国籍信徒の司牧について現状報告と提案がなされた。その後は中野司教からシノチ祭の今後の展望、小隈神父から地域と共に実施したザビエル教会バザーの成果についての報告があった。

修道会便り

◆金熙一(キン・ヒイル)神父(コンベンツアル会 韓国管区所属・古田町教会 会協力司祭)は、本河内教会(長崎大司教区)

短信

▼ザビエル教会堅信式 10月20日(日)ザビエル

司教の手紙

皆さま、お元気ででしょうか? 2019年も余すところ1か月となりました。教皇訪日を経て、私たちは新たな気持ちでクリスマスを迎えようとしています。そこで今回は、待降節を過ごす姿勢についてお話しします。

まず、待降節のことをラテン語では、Aventus(アドベンス)と言います。これはAd(「近くに」を意味する接頭語)と venire(「来る」)の合成語です。まさに「到来」という意味です。日本人には鴨長明の「方丈記」にあるように、時間の流れを川の流に例えてこの世の無常を諦観する傾向があります。しかし聖書の世界では、国難の危機の中で救いを求めている民衆に、希望を届け続けている預言者の存在があります。マタイ福音書では、イエス・キリ

教皇訪日からキリストの到来へ

鹿兒島教区司教 中野裕明

たのは、紀元前720年ごろのユダ国のアハズ王の時でした。イスラエルの北二つの国が自分のところに攻め上るうとしていた時、さらに北にある大國のアッシリアに援軍を頼もうか、躊躇している時の話です。結果的には北イスラエルだけがアッシリアに併合されて、ユダ王国は存続できました。こ

こで言いたいのは、マタイ福音書によると、イザヤが発したこの言葉は約700年後に実現したことになります。さて、マタイ福音書は、この句の次に「これは、『神は私たちと共におられる』という意味である」(マタイ1・22)という説明を加えています。この「神は私たちと共におられる」はその後、2回記録されています。1回目は「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいるのである」(マタイ18・20)。2回目は、「あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりにまで、いつもあなた方とともにいる。」

(マタイ28・20)です。旧約の長い時間の経過の後、時が満ちて、この地上に誕生した救い主イエス・キリストは、30数年の地上での生活を終えたのちも復活したキリストとして、私たちと共にいるということマタイ福音書は伝えたいのだと思います。さて、クリスマスまでの4週間、ミサの中で司祭は紫色の祭服を着用されます。紫色は仏教では高貴な色とされていますが、カトリックでは、人間のありのままの姿を自覚する色とされています。人間のありのままの姿とは、人祖アダムの子孫として、彼らが犯した罪(原罪)の傷を負っている事実、また自ら犯した罪の結果、神との絆が弱められている現実のことです。この時期、そのことを受け入れ、素直に神に赦しを求めることができるように祈りましょう。

3人が初誓願

聖血礼拝修道会

聖血礼拝修道会聖ヨゼフ修道院で10月21日(月)、初誓願式があった。この日誓願を宣立したのはベトナムから来ているマリア・パウロ、マリア・ベルナルド、マリア・アヴィラ・テレシアの3人のシスター。3人は福音朗読後の誓願



式でベール、十字架を受け取り、司教者の中野裕明司教に奉仕する者となること、キリストの十字架架以外を誇りとしないうこと、生活の中で会則を実践することを誓った。



教会の主日のミサの中で堅信式があった。この日堅信の恵みを受けたのは、4人。福音朗読後の説教で中野司教は「イエスを『いい人だな』と思つて洗礼を受けたあなたたちは、今日、堅信を受け、その恵みを頂いたら、これまでの乳飲み子のようにではなく、働ける大人の信者として新しい生き方を送って欲しい」と受堅者を励ました。

ミサ後は教会ホールで祝いの茶話会があった。

教区シノドスとこれからの鹿児島教区

シノドス準備委員会 紫原教会信徒 山下 和実

10月13、14日に行われた教区シノドスは、11月9日に提言書の作成が終わり、いち段落ついたところである。提言書はA4用紙6枚にまとめられ、そこには11項目の提言がなされ、36の具体的提案が出されている。今後は、中野司教が提言に対して応答書を出すことになっている。この3か月間、シノドス準備委員会の一員として携わってきたことを感謝したい。

先ず、現在の鹿児島教区について多くの信徒と危機感を共有できたことである。これまでも「教会は疲れている」「病んでいる教会」という言葉を耳にすることはあったが、自分たち自身の問題として捉えることはできなかった。しかし、準備委員の方々と何回も話をしていくうちに、鹿児島教区においても一時的な現象として疲弊や病状があるのではなく、根本的な問題がある事に気付き、刷新の必要性を感じる事ができた。「福音とは何か」「教会は何のためにあるのか」「信徒の役割は何か」などの信仰の基本をもう一度振り返りながら教区の現状を見ていく必要があると思う。日本の教会において、第二バチカン公会議の精神を具現化するために、福音宣教推進会議(NICE)が2回開催され教会の刷新を試みた。その成果を示す文書「ともに喜びを持って生きよう」が出されたが、十分に理解されていない。これは、教会の病状への診断書である。

今回の教区シノドスでは、信徒と司教が対等な立場で交わり、分かち合いができたことも収穫である。分かち合いは決して難しいことではない。一般社会では社会的地位の区分があり、自分を守るために付度がなされることもある。しかし、教会はキリストの教えを生きる人々の集団であり、神の前で皆が対等である。だから神の前に立つ一人の人間として本音を語れば良いのである。

一つのテーマについて、自分の体験を語り、お互いに聴くということが、今まではあまりなされていなかったように思う。信仰は、生活の場(家庭・地域社会・職場)が土台であり、そこにおいて私たちは福音的な生き方をするために日々喘ぎ、もがき、苦しみながら、キリスト者としての道を歩もうとしている。それを信仰共同体の仲間として共有するために、分かち合いがなされるのである。ある司教は、信徒の信仰体験について「その表現は素朴で、幼稚と言えなくも、聖職者たちから聴く話よりも、心が動かされる」とも言っている。(森一弘「心の闇を乗り越えて」参照)私たちが、現実の生活の中で、キリストに出会い、生きる希望を持つようになったのだから、その喜びを外に向かっ、もつと語り合うべきではないだろうか。

感謝をするとともに、今後どのように活かしていくかを皆さんと一緒に検討していきたい。教区シノドスの開会式で述べたことを繰り返した。「神の国の実現は、神ご自身のみわざであり、私たちは神の働き手です。私たちは、力も弱く、貧しいものです。間違ってもあります。失敗することもあります。それを恐れて尻込みに、ともに歩みましょう。」

「祈る」「読む」「黙想する」といふカトリックの伝統的な祈り「レクテイオ・デイ」を始めた。鹿児島市内の信者を中心に毎月一度、開か

を少しずつ深く読めるようになり楽しくなった」「毎回新鮮で、分かち合いによってみことばが広がり、実りがある」「何かを始める時に祈ることの大切さを強く感じるようになった」など集いの成果を実感しながら続けている。15年間で180回もの集いを実施してきた信徒たちに、レナト神父は「出席者がみことばを日常生活に活かしている。みことばを生きる事が大切。これからの日々の生活で活用してほしい」と語る。

信仰を日常生活で開花させたい

みことばを祈る集いが15周年

「聖ザベリオ宣教会」の指導のもと、2004年5月に始まった「みことばを祈る集い」がこの春、15周年を迎えた。鹿児島市内の信者を中心に毎月一度、開か

徒を中心として毎月一度、開かれてきたこの集いは、みことばを「読む」「黙想する」「祈る」「観想する」というカトリックの伝統的な祈り「レクテイオ・デイ」

「レクテイオ・デイ」で実施されている。14人で始まったというこの集いだが、病氣や高齢、メンバーが減ってきている。それでも会員たちは、レナト神父の長期不在時にも手紙での指導を受けながら、休むことなく集いを続け「月一回の集いで、聖書

れますように」。第二は「今年、台風や大雨などで被害を受けた方々のために祈ります。1日も早く、安心して暮らせる日が来ますように、勇気と希望をお与えください。そしてこの被害で亡くなられたすべての人々があなたのもとで安らかに憩うことができ、第三」と意向は続きました。私は小教区で和光園入園者を尊重し大切にしている思いに改めて感動させられ、そして今年、日本列島各地を襲った水害に関する意向は、時宜を得た意向であり祈りに力がこもった。ロザリオの祈りの後は、聖堂に移動し、ごミサがささげられ散会となった。

大熊教会の班会と

和光園教会のマリア祭

現在、私は仕事の都合で島外で単身赴任生活を送っている。10月の第4金曜日には島の我が家で班会が開催される予定もあり、また直後の日曜日には和光園教会(国立ハンセン病療養所内)で「和光園教会マリア祭」が行われることから休暇を希望し、班会とマリア祭に参加した。数年ぶりのことである。

大熊小教区の班会は、各家庭持ち回りで20時から行われる。今回は9人の出席者があり、まず家庭祭壇の前でロザリオの祈りをささげた。また「ロザリオの月」であることから、マリアさまの歌を皆で歌って賛美し、とても温かな気持ちになった。家庭の祝福をしていただいた思いであった。その後、班長から司牧評

議会の報告があり、さらに教皇来日オフィシャルテーマソング「PROTECT ALL LIFE(時のしるし)」をネットで検索し、皆で聴いて教皇来日に向け思いを馳せたところである。小料理を口に和やかな雰囲気ですべて解散した。「和光園教会マリア祭」

は、ロザリオの月の締めくくりとして毎年10月の第4日曜日に開催される。今年、誓願宣立60年(ダイヤモンド祝)を迎えた一人の修道女の発案で、約40年前から開催されている小教区の行事である。その修道女は「今は規模は小さくなっているが、当初は準備に日数をかけ、療養所入園者も職員もごぞつて参加し、園内を聖母行列しロザリオの祈りをささげていた」と語る。現在は和光園教会敷地内で開催されている。今回、入園者は車椅子で1人の出席であったが、近隣小教区からも駆けつけてくれる人があるなど、乳児から大人まで大勢の出席者で賑わった。

開催前日、ヨゼフ会会員によるルルド庭園周囲の除草作業、会場設営が行われた。ルルドの岩屋の上に手製の大きな十字架が掲げられ、電飾と洞窟周囲に小さなロウソクがたくさん置かれた。そして小教区独自で作成した五つの祈りの意向が灯籠に書かれ、洞窟の横に設置された。開催当日の日暮れ前、出席者はルルド庭園前に集いロザリオの祈りをささげた。日暮れとともにロウソク、灯籠、電飾に灯りをともし祈りに潜心させられた。ロザリオの祈りは各玄義の祈りの後に「祈りの意向」がささげられる。第一の意向は「和光園に入所されている方々のために祈ります。皆さんがいつくしみ深い神さまの豊かなお恵みと、マリアさまの取り次ぎによって慰めと希望に満たされまますように。また和光園で亡くなった方々も、救いの恵みと永遠の安息が与えら

れまますように」。第二は「今年、台風や大雨などで被害を受けた方々のために祈ります。1日も早く、安心して暮らせる日が来ますように、勇気と希望をお与えください。そしてこの被害で亡くなられたすべての人々があなたのもとで安らかに憩うことができ、第三」と意向は続きました。私は小教区で和光園入園者を尊重し大切にしている思いに改めて感動させられ、そして今年、日本列島各地を襲った水害に関する意向は、時宜を得た意向であり祈りに力がこもった。ロザリオの祈りの後は、聖堂に移動し、ごミサがささげられ散会となった。



和やかな雰囲気の班会



を少しづつ深く読めるようになり楽しくなった」「毎回新鮮で、分かち合いによってみことばが広がり、実りがある」「何かを始める時に祈ることの大切さを強く感じるようになった」など集いの成果を実感しながら続けている。15年間で180回もの集いを実施してきた信徒たちに、レナト神父は「出席者がみことばを日常生活に活かしている。みことばを生きる事が大切。これからの日々の生活で活用してほしい」と語る。

終了後、大熊小教区主任のタム神父さまが私に「こういう行事は、一度途絶えたと再開させるのは難しい。続けることが大切」と語ってくれたことが印象に残っている。(匿名希望信徒)

「王であるキリスト」と教会

紫原教会主任司祭

山口好信

教会では典礼暦の一年の最後に「王であるキリスト」を祝います。わたしたち信者にとってイエス・キリストは王、宇宙の王です。どういう王でしょうか、考えてみましょう。まずイエスが荒野で悪魔から誘惑を受ける場面です(ルカ第4章など)。悪魔はイエスにすべての国々を力と繁栄を与えよう。それはわたしたちに任ざられていて、これと人々に与えることができなくなるから。もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる」と誘惑します。でもイエスは「あなたに神である主を拝み、ただ主に仕えよ」と答えます。地上の王が持つ「権力と繁栄」をイエスは拒否しました。

次に、イエスが5千人にパンを与えたと、人々が自分を「王にするために」連れていこうとしているのを知り、山に退かれたとあります(ヨハネ第6章)。イエスは王になろうとはしません。最後に、ユダヤの総督ピラトの前

に連行され、十字架に付けられますが、罪状書きには「ユダヤ人の王」と書かれています。しかしイエスは権力を持たず、自分を救うことをしないで死んでいかれました。それを見て百人隊長は「本当にこの人は神の子だった」と確信します(マルコ第15章)。イエスは、この世の権力を持った王とは異なる次元の「王」なのです。今、イエスは天の「神の右の座」「玉座」(マルコ16・19、エフェソ1・20、黙示録など)にすわっておられますが、この地上の王座ではありません。十字架の死という奉獻、すなわち神に仕えることにより可能となった霊的な王座です。発揮された力、振るう力の種類が、地上の王とは違うのです。小さい者・弱い者を愛の力です。福音が示す「神の国」の王と、地上の王とは次元が全く異なります。

と、教皇や司教は両者を混同して両方を持つとしたのだのです。しかし、忘れてはならないのは「みなし」を意味することもある、ということ。初代教会では、詩編の言葉に基づき(詩編10・14)、

であり、「地上の王座」、地上の権力を持つていた時期が相当長かつたと言えます。社会に要請された面もあります。これは福音的ではありません。イエスは決して地上の権力、強権を使わなかつたこと、むしろ弱い人、仕える人となつて人々を生かしました。ですから司教や司祭が王の職務を担うというとき、このことが十分に踏まえらるべきでしょう。上から目線での力を振るうこと、教会運営を自分の采配で行うこと、これは福音に反することです。イエスは「異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたがる者は、皆に仕える者になり、一番上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えらるるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を捧げるために来たのである」(マ

ルコ10・42-45)と。このイエスの姿勢が教会統治の精神となるべきでしょう。教会法を見ると、司教は「統治する任務」を受ける(第375条)とか教区司教は「統治する権能」を有する(第391条)とあります。この中で「統治」という言葉は「王」に由来する言葉です。同様に、小教区の主任司祭はその共同体のため「治める任務」を行うとあります。これも「王」に由来する言葉です。ここでもう一度、9月に行われた川村信三教授(上智大学)の講演の言葉を思い出します。第二バチカン公会議は克服すべき課題として三つあげました。その第一は「中世以来教会の性格を決定づけたヨーロッパ文化と教会の結合というヨーロッパ中心主義の克服」でした。かつて教会法は現代の市民法の役割をも担っていました。司教は領主と同等でした。社会も教会もほぼ同一の権力による統治がなされていたのです。法律と聖書の結合、社会と教会の結合、封建諸侯と司教の結合です。しかし現代は市民法の領域と教会(教会法)の領域は別です。一般市民は教会が嫌なら、行かなくてもいいのです。市民としての生活は送れます。教会は本来の霊的なパワーだけで統治されるべきなのです。聖職者は王的権能を行使するとしても、イエス・キリストがどういう王であつたかを思い出すべきでしょう。

ヨハネの黙示録に「小羊は王の王だから」(17・14)とあります。イエスが「神の小羊」となつて身を捧げ、あらゆる法律を凌駕する愛を、聖職者にも信徒にも「等しく」注いでいることを想起すべきだと思えます。

福音書の中で「おとめ」という言葉をよく目にします。「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む。」(マタイ1・23a)、また、「そのおとめの名はマリアといつた。」(ルカ1・27b)、という使われ方から「処女」を意味することもあります。この言葉は基本的に若い未婚女性を意味しますが、「女中」や「奉公人」のような者に対しても同じ言葉が使われます。実のところ、福音書の中ではこれらのような意味で使われることがほとんど

どののです。しかし、忘れてはならないのは「みなし」を意味することもある、ということ。初代教会では、詩編の言葉に基づき(詩編10・14)、

誓いにふさわしくないふるまいをしかねないと感じ、それ以上自分を抑制できないと思うなら、思いどおりにしなさい。罪を犯すことにはなりません。二人は結婚しなさい。」という言葉があります(1コリント7・36)。ここでは、「娘に対して、情熱が強くなり、云々」と訳されていることから、性的な欲求を抑制する戒め

のように思えてしまいがちです。しかし、先ほどのことを踏まえ、言葉を補いながら訳するのなら、「もし、自分が引き取って養育している身寄りのない娘の婚期が遅れ、養父として世間的に『体裁が悪い』と本人が感じているのなら、…」となりま

面白く、ギリシャ語には「婚期が遅れてみつともない」を意味する言葉があります。確かに、この他、「無作法をする」、「見苦しい行為をする」、「体裁の悪いことになる」といった

意味もありますが、現代の日本でこのような言葉を公の場で使つたとしたら大問題になります。しかし、だからといって、原語の意味をオブラートに包んでしまったのでは、伝わらないこともあります。聖書の言葉は時代と文化、そして風土の中で紡ぎ出されたものなのです。こうしたことを踏まえると、「おとめ」というたつた一言を正確に理解するのもなかなか難しいものです。

《康由神父の聖書教室(20)》

「おとめ」の持つ意味



面白いことに、ギリシャ語には「婚期が遅れてみつともない」を意味する言葉があります。確かに、この他、「無作法をする」、「見苦しい行為をする」、「体裁の悪いことになる」といった

ウガンダの旅 2018 水汲み作業を体験 ⑩

谷山教会信徒 岩崎 正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもへの支援が続いているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもたちのウガンダを訪問した。これは生徒のために執筆した「ウガンダの旅2018」の10回目。



医院に並ぶお母さんたち、みんな赤ちゃんを抱っこ

このポンプもWVJの寄付による設置。汲んだ水はポリタンクで家庭に運ぶ。近くだから手で持つていく。とても質素な作りである。家というよりは、小屋

が、三つは使えないらしい。固定電話はどこにもないけど、携帯が通じるというの、わたしのような世代には不思議な感覚。インフラの整備と文明の発達、順番・導入の違いなのであろう。ウガンダには鉄道もほとんどない。独立した頃は、もう鉄道より自動車の時代になりつつあったからだろうと思う。 医院では、健診の必要性啓発や、衛生指導のプログラムにWVJ(ワールド・ビジョン・ジャパン)が関わっていることを聞く。ウガンダではかつて5歳未満の死亡率がかなり高かったらしいが、改善されているという。医院の裏には看護師たちの宿泊施設がある。このあたりでは一番進んだ施設のようだった。

午後6時のプログラムは、この医院の掃除をすることか、すぐそばの井戸から汲んだ水をお年寄り家庭に届けるか、どちらかの選択であった。わたしは水汲みを選択。まず、ポンプで水を汲むことを経験。このポンプもWVJの寄付による設置。汲んだ水はポリタンクで家庭に運ぶ。近くだから手で持つていく。とても質素な作りである。家というよりは、小屋

わたしのために泣く新しい元号を「令和」と聞いた時、わたしはすぐに日本が「大和」から「日本」と言うようになった時代のことを思い出しました。大陸の朝鮮・中国から漢字とともに仏教が日本に伝えられた頃に、神事を独占していた中臣氏と政治権力を握っていた藤原氏を同族でまとめて中国から「律令制度」を取り入れ、天皇を神格化して他の豪族の抵抗を封じること、国の骨格としました。 本来、律令の精神は法の前にすべての人間は平等という思想なのに、日本では行政機構の「階級」に従い、天皇

KJJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 12月号

に命をささげられることを「令」とし、それに逆らう者は反逆罪で罰せられる。つまり藤原氏は政教一致を日本で初めて実現したのである。 明治維新で新政府は、近代国家の骨格をたてるために欧米使節団を派遣し、先進諸国がキリスト教の信仰で王も民も「神の子の平等」として一つに統合していることに気づいていました。しかし伊藤博文は普遍に欠ける天皇を神様にすることを選り、政教一致を実現しました(福音と社会 vol.305・P.29)。

「積極的平和主義」の名目で、米英等が起す武力攻撃に、積極的に参戦して日本の軍需産業を育てるしかない。そして「宗教ではない国家神道」を国の機軸に据え、大嘗祭の大嘗宮の儀で神格化された天皇を利用して「政教一致の国家を再現したい」と考えている人たちが増えていきます(自民党・日本会議・軍需産業)。 一方で政府は今、憲法を変えようとしています。たとえば憲法の前文の最初のことば「日本国民は」を「日本国民」と変更するなど。 自民党は1955年の結党以来、一貫して新憲法、教育基本法、労働組合法など、戦後獲得した民主主義を無力化するために反対勢力を抑え込んできました。今までに憲法に違反してで

永遠の安息を願う 教区墓地で死者のためのミサ



死者の月に入った11月3日(日)午後、鹿兒島市唐湊にあるカトリックが、60と教多墓地の信者が共同ミサを司祭の司祭による祈りを、奄美市の死者のためのミサは同日の納骨堂前広場で

分担なのであろう。 医院の清掃グループも、水運びグループも、ひととおり作業を終えて休憩していると、近所の子どもたちが集まってきた。とにかくたくさんのおもちゃたち。どこにこんなに住んでいるのだろう、という感じ。ここでも1さんの風船をこどもたちはわれ先にともらいにくる。 午後4時頃、WVJのナラ

ウエヨ・キシータ事務所をあとにする。この日は珍しく車のトラブルなし。ホテルには5時頃着。明るいうちに着いたのは初めてである。まだ時間があつたので、ひとりホテルを抜け出す。 ホテルに入る前に大きな教会があつて、聖ペトロ・カタドラルとか書いてあつたから、「ひよつとしてあればカトリック教会？」と思つて、歩き始める。歩いていく途中で、ツアリの運転手たちに声をかけられる。運転手たちは別のところに泊まっている。 「どこへ？」 「教会まで」 「じゃあ乗っていけよ」 助かった。例のその教会に着いたら、ちょうど集会が終わつたところだった。ローマンカラーをつけた司祭に尋ねたところ、カトリック教会ではないとのこと。おそらく聖公会(イギリス国教会)なのだろう。

も自衛隊の海外派遣、武器輸出入、労働組合の破壊など、既成事実を積み重ねて外堀を埋めてきたので、あとは憲法をそれに沿うものに変えるだけです。しかしこの道は日本にしか通用しない狭いナショナリズムの道です。不景気になると軍部出身の政治家が権力を持つようになりまます。 聖書にあるように、権力は正義を妬み、弾圧と扇動を繰り返す、やがてその渦が回り始めると群衆は心ならずも「イエス(正義)を殺せ！」と叫ぶしかなく(マルコ15:10)、婦人は泣き叫ぶしかありません(ルカ23:28)。その時は遅いと歴史は教えています。「歴史から何を学ぶか」カトリック中央協議会。

私たちにできることは何でしょうか。 「懐憲への暴走を止めなくては！」(松浦悟郎司教「平和をつなぐ」) 「国民投票に命をかけて投票する」(投票率50%以下なら棄権は賛成に等しい) 「泣きながら抵抗を続けよう泣くことを一生やめてはならない 平和のために」(なかにし礼作詩) 「わたしのために泣くならしる自分と子供たちのために泣け」(ルカ23:28) (志布志教会 芝原慶次)

▼社会問題の分かち合い (毎月第三土曜日) 日時: 12月21日(土曜日) 13時~16時 場所: 教区本部 内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換 その他

文芸 短歌 国分教会 市来房枝 聖堂にて挙式してより五十年夫は一度も教会に行かず (ザビエル 教会) 朝夕に庭に拾ひし栗を 入れ赤飯炊きぬ娘の誕生日

たら、入口のところに聖母子像があるではないか。ヘーイと思つた。直接その前に行くことができず、金網がある。門のところのいたホテルの従業員さんに尋ねたら、事務所やホールがあるところだとうう。ぐるっと回つて像の前へ。 素材だが、アフリカっぽくはない。ヨーロッパの教会でよく見るタイプをまねして作つている。像があることを教えてあげて、翌朝それを見たVさん曰く、「手作り感謝載ね」。